



# 全日本選手権で 見せた進化の第一歩。 優勝という自信を胸に

石川佳純  
Ishikawa Kasumi  
(全農)

前日まで明るかった会場は、整備され、最終日の会場は照明が落とされ、コートのみがライトアップされている。

いよいよ決勝戦。演出が行われた後、石川佳純の名前がコールされる。選手入場口にライトが当てられる。拍手が起きる。石川は実に6年連続の決勝の舞台。拍手に応えながら走る彼女の姿は、風格を漂わせ、充実した姿である。

決勝の相手は平野美宇。準決勝で同期の伊藤に完勝。勢いに乗っている。決勝戦が始まる。全日本選手権という独特の雰囲気。普段では味わえないシチュエーション。素晴らしい試合を期待する。

しかし幾度となくたかれるカメラのフラッシュに、平野はその都度プレーを止め、審判に注意を促す。明らかに試合に集中できていない。しかし経験豊富な石川は動じない。足をその場で動かしたり、軽くうなずくなど、自分の世界を作って集中している。少しのことでは動じない女王としての貫録があった――。

**一本ずつ落ちて着いて、冷静に**  
本場の試合が始まったのは、第4ゲームからであった。石川がゲームカウント3対0、8-5とリード。石川の優勝を予感させるような内容で終始試合は進んでいた。

しかしここから平野が目醒めるような怒涛の攻撃スタイルを見せる。やや受け身になってしまった石川は、このゲームを落とし、5-11と5ゲーム目、平野は更に勢い付く。ネットインなどを含め、7-2とリード。石川の表情も明らかに前半のゲームと違うのが伺える。平野が9-4とリード。次のラリーは石川のバックハンドが決まり、9-5となる。

「流れはたしかに相手に傾いていたと思います。9-5となり、点数は気にしないで一本ずつ取つていこう、と少し冷静になれていたと思います。仮にこのゲーム負けてもゲームカウ

ントは3対2。まだリードしている。守りに入らず、落ちて着いてプレーすれば良い」と石川はそのときを振り返る。

そこからゲームは石川の流れとなる。平野も攻めのプレーを見せるが、石川はさらにその上を行く。気が付けば石川がマッチポイントを握る。そして次のラリーを石川が制す。

優勝が決まった瞬間、両腕を高々と上げ、喜びを表現。暗闇に沈んだ東京体育館に、歓喜が弾けた瞬間であった。

「優勝は素直に嬉しいです。今年はリオオリンピックが開催される年。全日本で優勝して良いスタートを切りましたので、今回の優勝を自信に変えたい」と記者会見で話した。石川は4度目の全日本選手権制覇。

全日本選手権での勝利数を通算54とした。スター選手が多い女子卓球界。今回の全日本選手権では、ベスト8入賞者のうち6名が10代、と世代交代が進んだ印象。その中、石川は6年連続で決勝に進出、しかも3年連続で優勝するなど、無類の強さを示している。



## 際立つ石川の強さ。1強時代到来か!?

「石川佳純を意識してプレー、自分たちから何か特別なことをプレーしなければいけない」という心理に追い込まれてしまい、力みが生じる。もちろんリスクを負って攻めるしか打開策はない。石川佳純は、ネットの向うにただで相手にミス強いるのだ。

しかし石川佳純は完全無欠ではない。時にプレーが乱れてしまう時もある。事実、決勝もリードしてから単調になってしまった、と反省を述べている。

卓球は精神面が大きく勝敗に左右できる。それを克服できるのは自分自身だけである。その最も手ごわい「敵」を石川は最後にねじ伏せてしまいう「力」を持っている。

「去年はプレッシャーを感じてプレーしていました。でも今回は去年ほど感じませんでした。プレッシャーを力に変えられたというか、応援の力もあつたし、思い切つてプレーできたと思います」

前回の全日本選手権と今回の全日本選手権を比較してもらった。「2015年末、そして年が明けて、たくさん練習できていたし、良い準備はできていました。日頃から攻めを早くしたい、と思つています。ラリーになつてもただ返すだけではなく、自分から仕掛けたら、仕掛けられない時は、コース

を突く意識でプレーしています」と近況を聞くことができた。

「ベスト8決定戦の宋さんの試合が印象に残っています。これまで何度か対戦したことがあり、今回の宋さんは調子が良いと感じました。もっと競つてもおかしくないと思ったのですが、自分の調子も良かったのか、その上を行くことができたので勝つことができました」

常に挑戦を受ける立場にいる石川が、「相手より上に行く」という心理状況になつてしまえば、崩すのは困難であろう。

「意識した『身体』の使い方」  
2015年9月のアジア選手権を怪我で欠場。不安があつたという。しかしその怪我が軀機となり、さらに強くなった、とも話してくれた。身体を「から鍛え直した」のである。災い転じて福となす、とはこのことである。

「練習することも大事だけど、身体のケア、身体の使い方、身体への意識が変わりました。練習をちゃんとして、身体作りをして、練習をやり込むことが重要だと思えました。それ以降はしっかり練習がやり込められていると思つし、厳しい練習にも耐えられるようになったと思います。たくさん課題はあると思いますが、サービスマンシップをもっと磨いていきたい。」

相手の攻めるポイントを見つけ、そこを攻撃してチャンスを作り、得点をあげる、そういうことが今後必要になってくるし、そこを攻撃していくのが特徴だと思つています。自分の良い部分をもっと伸ばして、もっと上を目指したい」と語る。

世界のトップ選手も進化しているが、石川も進化している。世界で勝つにはどのような選手であるべきなのか、石川は常に追及しているのではないか。

全日本選手権優勝を自信に変えて、女王の挑戦はまだまた続く。

